
吉岡眞之年譜

1963年（昭和38年）

3月31日 東京都立九段高等学校卒業

1964年（昭和39年）

4月1日 東京大学教養学部（文科Ⅲ類）入学

1970年（昭和45年）

5月31日 東京大学文学部国史学科卒業

6月1日 東京大学大学院人文科学研究科（国史学専攻）修士課程入学

1972年（昭和47年）

3月31日 同上修了

4月1日 宮内庁書陵部編修課（研究職）に採用

1980年（昭和55年）

4月1日 国立歴史民俗博物館展示プロジェクト委員（1981年3月31日まで）

4月1日 国学院大学文学部非常勤講師（1994年3月31日まで）

1984年（昭和59年）

4月1日 宮内庁書陵部編修課皇室制度調査室主任研究官

1991年（平成3年）

4月1日 宮内庁書陵部編修調査官

1992年（平成4年）

4月1日 宮内庁書陵部編修課長

1994年（平成6年）

4月1日 国学院大学大学院非常勤講師（2010年3月31日まで）

1995年（平成7年）

11月13日 東京大学博士（文学）（第12539号）

1996年（平成8年）

4月1日 国立歴史民俗博物館教授（歴史研究部）（2004年3月31日まで）

10月1日 東京大学文学部・大学院非常勤講師（1997年3月31日まで）

1999年（平成11年）

4月1日 総合研究大学院大学教授（文化科学研究科日本歴史研究専攻）（2004年3月31日まで）

4月1日 東京大学文学部非常勤講師（2000年3月31日まで）

2000年（平成12年）

4月1日 早稲田大学大学院非常勤講師（2002年3月31日まで）

2001年（平成13年）

4月1日 国立歴史民俗博物館歴史研究部長（併任、2004年3月31日まで）

2002年（平成14年）

2月 文化庁文化審議会文化財分科会第一専門調査会専門委員（現在に至る）

4月1日 文部科学省教科用図書検定調査審議会臨時委員（現在に至る）

2003年（平成15年）

4月1日 国士舘大学大学院非常勤講師（現在に至る）

2004年（平成16年）

4月1日 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館教授（2010年3月31日まで）

4月1日 国立歴史民俗博物館副館長（併任、2007年3月31日まで）

4月1日 国立大学法人総合研究大学院大学教授（2010年3月31日まで）

吉岡眞之業績目録

- (書評〔石上英一と共著〕)「『講座日本史』1 古代国家」(『歴史学研究』367号, 1970年)
- 〔米田雄介と共編〕史料纂集『吏部王記』(続群書類従完成会, 1974年)
- 「1973年の歴史学界－回顧と展望－(日本古代)」(『史学雑誌』83編5号, 1974年)
- 「共同体と奴隷制 日本(律令体制)」(『現代歴史学の成果と課題 2 共同体・奴隷制・封建制』青木書店, 1974年)
- 「検交替使帳の基礎的考察」(『書陵部紀要』26号, 1975年)
- 「日本後紀」(『歴史の名著 100 〈歴史読本 臨時増刊〉』, 新人物往来社, 1975年)
- 「延暦交替式二題」(『日本古代の社会と経済』下巻, 吉川弘文館, 1978年)
- 「不与解由状と勘解由使に関する試論」(『古代史論叢』下巻, 吉川弘文館, 1978年)
- 「1977年の歴史学界－回顧と展望－(日本古代)」(『史学雑誌』87編5号, 1978年)
- (書評)「福井俊彦著『交替式の研究』」(『朝日新聞』1978年6月26日朝刊)
- 「九條家本『令訓釈抜書』」(『書陵部紀要』31号, 1980年)
- 「国史跡斎宮跡」(『歴史研究』245号, 1981年)
- 「歴史名辞のよみ方について」(『歴史と地理－日本史の研究 115－』316号, 1981年)
- 「明治・大正期 宮内省における六国史校訂事業」(『書陵部紀要』34号, 1983年)
- 〔石上英一と共著〕「続日本紀の書誌」(科学研究費補助金(総合研究A)研究成果報告書『続日本紀を中心とする8世紀史料の編年的集成とその総合的研究』, 1983年)
- 〔笹山晴生等と共編〕『井上光貞著作集』全11巻(岩波書店, 1985年～86年)
- 「解説〈井上光貞『日本の文化と思想』について〉」(『井上光貞著作集』第10巻, 岩波書店, 1985年)
- 「石母田正氏の書翰(一九五二年六月一三日付)」(『井上光貞著作集』第2巻 月報9, 岩波書店, 1986年)
- 「『延喜式覆奏短尺草写』の一問題」(『日本歴史』459号, 1986年)
- (書評)「荒木敏夫著『日本古代の皇太子』」(『週刊読書人』1986年1月20日号)
- (書評)「林陸朗・鈴木靖民編『復原天平諸国正税帳』」(『古文書研究』25号, 1986年)
- 「上半期の収穫」(『週刊読書人』1987年8月10日号)
- 「蓬左文庫所蔵『角倉本続日本紀』の諸問題」(『続日本紀研究』254号, 1987年)
- 「正倉院雑談」(『日本歴史』467号, 1987年)
- 〔遠山茂樹等と共編〕『石母田正著作集』全16巻(岩波書店, 1988年～90年)
- 「解説〈石母田正『学問と生涯』について〉」(『石母田正著作集』第16巻, 岩波書店, 1990年)
- 〔笹山晴生等と共編著〕新日本古典文学大系『続日本紀』1－5(岩波書店, 1989年～98年)
- 〔石上英一と共著〕「(続日本紀)書誌」(新日本古典文学大系『続日本紀』1, 岩波書店, 1989年)
- 「石母田正の津田左右吉研究に関する資料」(『津田左右吉全集』補巻1 月報, 岩波書店, 1989年)
- 「中世におけるある『類聚国史』の状態」(『日本歴史』500号, 1990年)
- 「紙簡」(『日本歴史』504号, 1990年)
- 「時範記」(『日本歴史「古記録」総覧 〈別冊歴史読本〉』, 新人物往来社, 1990年)
-

-
- 「日本後紀」（『日本歴史「古典籍」総覧〈別冊歴史読本〉』，新人物往来社，1990年）
- 「藤原鎌足」（『日本歴史「伝記」総覧〈別冊歴史読本〉』，新人物往来社，1990年）
- （報告）「『上野国交替実録帳』について」（国立歴史民俗博物館主催「国府シンポジウム」1990年3月19日）
- 〔吉村武彦と共編著〕『争点 日本の歴史』第3巻（新人物往来社，1991年）
- 「平安貴族はなぜ日記をつけたか」（『争点 日本の歴史』第3巻，新人物往来社，1991年）
- 「幼帝が出現するのはなぜか」（『争点 日本の歴史』第3巻，新人物往来社，1991年）
- （講演）「古代社会の成立と聖武天皇」（川崎市教育委員会主催「多摩テレビセミナー『正倉院』」1991年1月24日）
- 〔石上英一と共編著〕『続日本紀 蓬左文庫本』1－5（八木書店，1991年～93年）
- 「（蓬左文庫本『続日本紀』）解題」（『続日本紀 蓬左文庫本』第5冊，八木書店，1993年）
- 「九条家本『延喜式』紙背文書の研究－「上野国交替実録帳」の再検討－」（科学研究費補助金（総合研究A）研究成果報告書『儀式書を中心としてみた平安時代政治機構の総合的研究』，1991年）
- 「郡・里・村」（『日本村落史講座』第4巻，雄山閣出版，1991年）
- 「貴族社会の成熟」（『古文書の語る日本史』第2巻，筑摩書房，1991年）
- 「類聚三代格」（『皇室の至宝』11〔御物 書跡Ⅱ〕，毎日新聞社，1992年）
- 「史書と法典－史料学的研究の現状」（『新版古代の日本』10，角川書店，1993年）
- 〔吉村武彦と共編著〕『新視点 日本の歴史』第3巻（新人物往来社，1993年）
- 「平安時代の政務をめぐる」（『新視点 日本の歴史』第3巻，新人物往来社，1993年）
- 『古代文献の基礎的研究』（吉川弘文館，1994年）
- 「『平治元年十月記』」（『古代文献の基礎的研究』所収，吉川弘文館，1994年）
- 「田中本『令集解』覚書」（『古代文献の基礎的研究』所収，吉川弘文館，1994年）
- 「古代人の通過儀礼」（『岩波講座日本通史』古代5，岩波書店，1995年）
- （書評）「高嶋正人先生古稀祝賀論文集刊行会編『日本古代史叢考』」（『日本歴史』566号，1995年）
- 「東山御文庫本『続日本紀』の周辺」（『続日本紀研究』300号，1996年）
- 「古代官人の「勤務評定」」（『歴博』79号，1996年）
- 「史書の編纂」（『古代史研究最前線〈別冊歴史読本〉』所収，新人物往来社，1998年）
- 「折本のヴァリエーション－田中本『春記』の旧装訂－」（『日本歴史』600号，1998年）
- 〔編著〕『日本の国宝』50（朝日新聞社，1998年）
- 「後宇多院宸記」（『日本の国宝』50，朝日新聞社，1998年）
- 「注を具えた暦－具注暦」（『日本の国宝』50，朝日新聞社，1998年）
- （報告）「9世紀王権研究の問題点－天皇・太上天皇関係を中心に－」（国学院大学国史学会十月例会「ミニ・シンポジウム 日本古代の王権・国家と東アジア（Ⅳ）－9世紀の王権・国家と東アジア－」1998年10月24日）
- （報告）「典籍の装訂とその変化について」（文化庁・国立歴史民俗博物館共催「歴史民俗資料館等専門職員研修会」1998年12月4日）
- 〔虎尾俊哉等と共編〕『国立歴史民俗博物館蔵 貴重典籍叢書』歴史篇（全18冊）（臨川書店，1998）
-

-
- 年～2001年)
- [虎尾俊哉等と共編]『国立歴史民俗博物館蔵 貴重典籍叢書』文学篇(全22冊)(臨川書店, 1999年～2002年)
- [編著]『皇室の名宝』7(朝日新聞社, 1999年)
- [「皇室文化の周辺 調査・研究の先駆者たち 森 鷗外 帝室博物館総長・図書頭」(『皇室の名宝 02 正倉院 中倉』朝日新聞社, 1999年)
- (口絵解説)「穂井田忠友書簡」(『日本歴史』609号, 1999年)
- (講演)「公家の日記を読む」(第189回「歴博講演会」1999年9月11日)
- [「延喜式覆奏短尺草写」の研究－翻刻・訓読篇－](『國學院大學大学院紀要』31輯, 2000年)
- (講演)「平安時代の公家日記」(社団法人金鶏会「日本歴史講座 いま明かされる古代」2000年6月17日)
- [「類聚国史」(『国史大系書目解題』下, 吉川弘文館, 2001年)
- [共著]『千葉県の歴史』通史編古代2(千葉県, 2001年)
- 第1編第2章第4節「国司の制度」
- 第1編第2章第5節「房総三国の国守」
- 第3編第3章第1節「親王任国制と国司制度の変質」
- [「(尊経閣文庫所蔵『類聚国史』)解説」(『尊経閣文庫善本影印集成 34 類聚国史 三』八木書店, 2002年)
- (講演)「日記を読む」(歴博友の会「古文書講座 古代」2002年2月2日)
- (講演)「正倉院文書－写経生の生活を中心として－」(歴博友の会「古文書講座 古代」2002年5月18日)
- [「三条西家旧蔵『延喜式』卷第五十・雜式」(『国立歴史民俗博物館研究報告』108集, 2003年)
- [共著]『藤枝市史 資料編2 古代・中世』(藤枝市, 2003年)
- (講演)「天平宝字改元前夜－八世紀政治史の一断面－」(「藤枝市史学習会」2003年10月4日)
- [「(尊経閣文庫所蔵『交替式』)解説」(『尊経閣文庫善本影印集成 35 交替式 法曹類林』八木書店, 2005年)
- [「(尊経閣文庫所蔵『法曹類林』)解説」(『尊経閣文庫善本影印集成 35 交替式 法曹類林』八木書店, 2005年)
- [「文献資料と出土文字資料」(『歴史研究の最前線 Vol.4 出土文字資料の新展開』吉川弘文館, 2005年)
- [編著]『九条家本延喜式の総合的研究』(科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書, 2005年)
- [「部類記－「公家学」の教材」(『歴博』131号, 2005年)
- [「人間文化研究機構連携展示 うたのちから－和歌の時代史－」(『歴博』132号, 2005年)
- [「古今集1100年, 新古今集800年に寄せて」(『毎日新聞』2005年10月25日夕刊)
- (講演)「正倉院文書研究とコロタイプ複製の意義」(「コロタイプ技術の保存と印刷文化を考える会 第3回研究会」2005年5月21日)
- (報告)「平安時代中期の国家儀礼と和歌」(歴博・国文研共同フォーラム「和歌と貴族の世界」
-

-
- 2005年11月3日)
- 「古代の逸書」(『文字と古代日本5 文字表現の獲得』吉川弘文館, 2006年)
- 「(尊経閣文庫所蔵『政事要略』)解説」(『尊経閣文庫善本影印集成36 政事要略』八木書店, 2006年)
- 「古代の辞書」(『言語と文字 列島の古代史6』岩波書店, 2006年)
- 「尊経閣文庫所蔵『日本霊異記』の書誌」(『尊経閣文庫善本影印集成40 日本霊異記』八木書店, 2007年)
- 「共同研究の可能性 国文学への提言と歴史学の課題」(『和歌と貴族の世界 うたのちから』塙書房, 2007年)
- 「平安時代中期の国家儀礼と和歌」(『和歌と貴族の世界 うたのちから』塙書房, 2007年)
- 〔小川剛生と共編〕『(人間文化研究機構連携研究「文化資源の高度活用」)中世近世の禁裏の蔵書と古典学の研究－高松宮家伝来禁裏本を中心として－ 研究調査報告 1』(2007年)
- 「中世近世の禁裏の蔵書と古典学の研究－高松宮家伝来禁裏本を中心として－」(『論壇 人間文化』2, 2008年)
- 〔小川剛生と共編〕『(人間文化研究機構連携研究「文化資源の高度活用」)中世近世の禁裏の蔵書と古典学の研究－高松宮家伝来禁裏本を中心として－ 研究調査報告 2』(2008年)
- 「高松宮家伝来禁裏本『続日本紀』の筆跡についての覚書」(『(人間文化研究機構連携研究「文化資源の高度活用」)中世近世の禁裏の蔵書と古典学の研究－高松宮家伝来禁裏本を中心として－ 研究調査報告2』2008年)
- 〔編著〕『高松宮家蔵書群の形成とその性格に関する総合的研究』(科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書, 2008年)
- 「前田綱紀の典籍収集－「秘閣群籍」目録を中心に－」(科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書『高松宮家蔵書群の形成とその性格に関する総合的研究』2008年)
- 〔小川剛生と共編〕『禁裏本と古典学』(塙書房, 2009年)
- 「前田綱紀収集「秘閣群籍」の目録について」(『禁裏本と古典学』塙書房, 2009年)
- 「正倉院古文書－一万数千点に上る古代の古文書群－」(『歴博』154号, 2009年)
- (口絵解説)「異本『公卿補任』」(『日本歴史』736号, 2009年)
-